



四日市市自治会連合会

四自連だより

発行

H24年9月1日発行

[編集・発行]

四日市市自治会連合会

〒510-8601

四日市市諏訪町1-5

TEL 059-354-8287

e-mail:yonjiren@m6.cty-net.ne.jp

第8号

四日市市議会議長より四自連に向けて メッセージをいただきました。

四日市市議会議長
藤井 浩 治



四日市市自治会連合会の皆様には、日頃から地域住民の方々のために幅広い分野でご尽力いただいております。心からお礼申し上げます。

また、東日本大震災の直後には、四日市市自治会連合会の皆様の積極的な義援金活動により、市民の皆様から5,185万円もの多額の義援金が寄せられ、被災地の皆さんの復興に大きな支援となりましたことに心から敬意を表します。

さて、本年2月定例会議では、四日市市自治会連合会から、本市の財政状況を考慮のうえで、四日市市議会議員の定数削減の請願が提出され、審議の結果、採択されました。この請願の趣旨を重く受け止め、議員定数の適正化について、議員間で政策的協議を行う議員政策研究会の場において論議を行うこととしております。

また、四日市市議会では、昨年5月に議会基本条例を施行し、市議会では全国初となる通年議会を導入いたしました。このことで、必要な時に議会を開催することができ、特に災害時など突発的な事象に対しても迅速に対応できるようになりました。さらに、各定例会議終了後に議会の内容を市民の皆様へ報告する議会報告会とそれに合わせて行っている市民の皆様との意見交換会（シティ・ミーティング）を、今後は各地区市民センターや小中学校など皆様にとってより身近な施設で開催いたしますので、ふるってご参加いただきますようお願い申し上げます。

自治会活動の運営には、一方ならぬご苦労があらうかと存じますが、これからも地域を取りまとめるリーダーとしてまた、困難に打ち勝つ地域社会の絆づくりのキーパーソンとしてご尽力賜りますようお願い申し上げます。

最後に、四日市市自治会連合会の益々のご発展、ならびに皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りいたします。

四日市市自治会連合会総会

5月30日（水）じばさん三重にて総会が行われました。

田中市長・藤井議長からご挨拶を頂き、事業報告、決算報告、事業計画、予算等の審議の後、新役員が選出されました。

総会後は、行政幹部の施策説明会が行われ24年度の施策等の紹介がありました。



役員人事

会長	高野 健	(日永地区)
副会長	水谷 重信	(海蔵地区)
副会長	野崎 譲二	(浜田地区)
副会長	藤田 一行	(八郷地区)
副会長	廣田 敏春	(泉地区)
副会長	若尾 伸一	(四郷地区)
副会長	原田 禮嘉	(内部地区)



第8号の おもな内容

- 三重県自治会連合会 総会 P2
- 各連合自治会の地域活動 P3~7
- 北勢バイパスの進捗状況 P8
- 内部・八王子線の存続について P9

三重県自治会連合会 総会

7月11日（水）に三重県自治会連合会総会が会長市である四日市市で開催され、その席で自治行政並びに社会福祉等功労者の表彰式が行われました。

三重県自治会連合会に加入している市は、市町併せて13支部あり、知事懇談会、三重県への要望、リーダー研修会等を行っております。



《表彰者》

日赤表彰（39名）	
共同地区	林 悦男
共同地区	黒田 悟
共同地区	八尾 誠
共同地区	横井 龍聖
共同地区	渡辺 貞則
中央地区	米村 茂樹
中央地区	則竹 弘
中央地区	中川 政之
港地区	堤 明
港地区	藤村 昇平
浜田地区	堀木 晃一
浜田地区	飯田 輝一
浜田地区	谷口 尚市
浜田地区	堀木 忠郎
浜田地区	須賀 亮一
橋北地区	山内 満
橋北地区	佐藤 晃久
羽津地区	鬼頭 洋二
富田地区	柳川 翼村
富田地区	鈴木 次男
富田地区	堀 丈夫
富田地区	鈴木 明雄
富洲原地区	伊藤健一郎
下野地区	藤谷 克彦
三重地区	坂 弘
三重地区	國武 京子
三重地区	藤田 耕司
県地区	瀬古 正美
県地区	大西 始
川島地区	小川 泰雪
川島地区	瀬川 憲生
神前地区	内田 幸輝
神前地区	佐藤 房雄
常磐地区	後藤勉(故)
四郷地区	伊藤 貞美

小山田地区	萩 伸元
水沢地区	森田 秀次
水沢地区	新 仙市
塩浜地区	斎藤 宗男
社協表彰（23名）	
共同地区	野末 良保
共同地区	大井 一美
共同地区	坂倉 宗平
同和地区	水谷 謙之
港地区	奥村 吉孝
浜田地区	野崎 讓二
浜田地区	鈴木 常司
浜田地区	藤田 峯雄
橋北地区	伊藤 和義
橋北地区	安田 勝正
羽津地区	味香 祥平
羽津地区	西脇 良孝
富田地区	伊藤 靖隆
富田地区	橋本 稔
富田地区	金森 清吉
下野地区	横谷 茂
神前地区	高尾 善允
常磐地区	倉本 知子
四郷地区	朝妻 泰孝
四郷地区	渡邊 一夫
塩浜地区	阿野田浅克
塩浜地区	佐田 正俊
塩浜地区	佐藤 誠也
共募表彰（40名）	
共同地区	小林 俊廣
中央地区	木下 貞昭
中央地区	浅田 尅久
中央地区	伊藤 正明
中央地区	川村 明次
港地区	寺井 勝
浜田地区	寺前 宗明

浜田地区	西田 稔
浜田地区	黒宮 豊
浜田地区	加藤 正司
橋北地区	高波 功
橋北地区	鈴木 満
羽津地区	伊藤 光博
羽津地区	早川 和宏
富田地区	大野 章
富田地区	広瀬 了三
富田地区	長谷川文雄
富田地区	川村 一哉
富洲原地区	水谷 武彦
富洲原地区	竹岡 眞之
富洲原地区	藤田 信男
富洲原地区	中間 景長
富洲原地区	川村 進
富洲原地区	加藤 昇
八郷地区	北村與志雄
下野地区	川北 秀成
川島地区	後藤 三郎
常磐地区	稲葉 久
常磐地区	梅谷 邦英
常磐地区	小川 浩司
水沢地区	堤 武
日永地区	神山 清光
日永地区	溝川 紳一
日永地区	吉川 俊範
日永地区	田中 資郎
日永地区	南川 征雄
日永地区	坂 照明
塩浜地区	阿野田英生
内部地区	伊藤 頼夫
楠地区	中村 克義
会長感謝状（1名）	
八郷地区	宮島 英男

各連合自治会の地域活動

中部【浜田地区】

浜田地区連合自治会

会長 野崎 譲 二



浜田地区の防災意識向上への取り組み

当地区は中心市街地から港湾に近いところまで幅広い地域で構成されており、各町によって条件が変わります。旧態依然の町、マンションばかりの町、それらが混在している町、あるいは高齢者ばかりで子供も少ない町、比較的若い層の人が住んでいて子供も多い町、そんな中で平成18年に「浜田地区自主防災組織連絡協議会」を立ち上げました。そして平成21年まで毎年1回訓練を行ってきました。（内容は情報伝達、消火、救出搬送、炊き出し、救急救命AED、防災倉庫確認、防災講話ビデオ上映等々）そのなかで気づいたのは、毎回600名～700名の参加者があっても実際に物に触れたり、種々体験をしてみようとする人は限られている、若い主婦及び子供の参加が少ないことなどでした。

そんなことから平成22年は親子、家族で参加してもらい防災意識を高めるという目的で「北淡震災記念公園」の見学を行いました。参加者320名（内小学生40名あまり）貸切りバス8台を要するイベントとなりました。アンケート結果は98%が良かった、93%がまた参加したいと答えました。普段付き合いのないご近所と親睦がはかれたので、災害時にきっと役にたつのではといった意見も聞かれそれなりの成功であったと自負しています。

平成23年からは「津波」についても視野にいれて対策を考え直さねばということで、三重大学 川口准教授をアドバイザーに迎えて訓練方法等について検討してきましたが、訓練については前述のごとく各町によって条件が異なるので非常に難しい点もあり平成24年に持ち越しましたが、3月に九の城町を中心とした近隣自治会の津波避難ビルへの避難訓練を行いました。続いて川口准教授による「浜田地区防災講演会」を開催したところ350名の参加者があり少しは関心が高まってきたのかなと思っているところです。

今後も災害に適切に対応できる人づくりを目指して、訓練、研修等の事業を推進していきます。



各連合自治会の地域活動

北部【富田地区】

富田地区連合自治会

会長 鈴木 次 男

連凧数本が風に舞う

「名泗国道を車で走っていたら、海側で連凧数本が舞っていた。ちょうど龍が風で舞っているようで実に見事であった。連凧を見るのは初めてなので、誰がどんなふうに掲げているのか知りたくなり…。やっと会場に来ることができました。」と、40代の家族に話しかけられた。

市制111周年記念事業として、富田地区連合自治会では、111連凧を作ることにした。それ迄は、自治会行事として、子供の冬休みに、凧揚げの楽しさを経験させてやろうと凧作り教室や凧揚げ大会を実施してきた。

記念事業では、小学校1年生全員と幼稚園保育園、文化幼稚園の園児に1人1枚ずつ絵を描いてもらいました。

多くの自治会長の協力で、111連凧2組に仕立てた。幸い富田地区には富双公園という夏に花火大会をする芝生の大公園がある。そこが凧揚げ大会の会場である。

それ以後、学校の協力も得て、毎年1年生全員に一枚ずつ絵を描いてもらい連凧に仕立てるのが恒例となった。

今年は5本の110以上の連凧、他に凧作り教室で作った個々の凧や、子供の作った連凧で、富双公園の空を賑わした。又、連凧を組む時、1組の1番から2組、3組、4組と出席番号順に並べた。従って「今度はぼくの凧や!」と言うことで、親が子供と凧を記念写真。又、150m程の凧ひもにどれくらい引張る力があるのか、個々の子供に持たせ「えらい力や!」と連凧の引く力を感じ取らせるようにした。勿論、凧ひもの最後は大人の体にしばりつけているが…。

150m程の連凧が、同じ公園で何本も揚がっている景色は実に壮観である。これが、富田地区だけでなく、四日市の名物になったら…と、夢に見ている。



各連合自治会の地域活動

西部【県地区】

県地区連合自治会

会長 廣田 敏 春

福井市宮ノ下地区まちづくり委員会との交流



県地区は、三つの河川と多くの人々によって受け継がれてきた田園風景に囲まれ、自然と農を肌で感じることのできるのどかな地区です。県地区と同じように「自然と調和がとれたまちづくり」を目指す福井市宮ノ下地区のみなさんとの交流会を、グリーンパーク岡山で本年7月に開催しました。

最初の交流会は、県地区のホームページを閲覧した宮ノ下地区より見学依頼があり、平成20年12月に実現したものでした。

福井市地元産のそば粉と道具一式持参で手打ちそばの実演をしていただき、大変おいしくいただきました。グリーンパーク岡山は、最初各自道具持参で人も入れない土地を人力で切り開いてきた話、次々整備されていく中で達成感を味わい苦労も忘れ頑張ってきたこと等を話し合いました。

その後、平成21年10月、岡山を愛する会の20名が、福井市宮ノ下地区を訪問し、全国花いっぱいコンクール運輸大臣賞受賞の「福井コスモスまつり」に参加し、トラクターに乗って世界30種類の美しいコスモス畑を見学しました。

今回3度目の交流会では、県地区自慢の「地域連携花壇」や「ホタルと桜の竹谷川」、「岡山のハス池」等を案内し、ハスの花や地域連携花壇は見頃で大変喜んでいただきました。岡山の自然の中で、手打ちそばやスイカを食べながら歓談し、同士の絆と交流を深めました。でも何故同じ所へ2回も視察研修を？と質問すると、あがたの人々は温かく気さくで、岡山のその後の進捗状況も気になり、みんながもう一度行こう！という事で実現したとの事でした。

今後も自然を通して多くの方々と交流をもてる「あがた」を後世に伝え、魅力あるまちづくりに繋げてきたいと考えています。



各連合自治会の地域活動

西南部【四郷地区】

四郷地区連合自治会

会長 若尾 伸 一

「歴史あるまち」と「ふるさとになった団地」が共存する四郷地区

○四郷地区の紹介

四日市市の西南部に位置する四郷地区は、(旧)四郷、笹川及び高花平の3地域で成り立っています。地区内の人口は24,300人で、小学校が4校(四郷小学校、笹川東小学校、笹川西小学校、高花平小学校)と中学校が2校(笹川中学校、西笹川中学校)あります。

四郷地区の中央部を流れる天白川の両岸の地域が、(旧)四郷です。古墳や遺跡が残り、明治時代から昭和にかけては、醸造業や製糸業を中心とした産業が栄え、今なお古いまち並みや建物などが、昔のたたずまいをとどめています。

天白川南方の丘陵地には、県下最大のニュータウンとして構想され、昭和40年から造成工事が始まった笹川団地が広がります。平成20年には、団地創設40周年記念事業・式典が盛大に行われました。

笹川の西方には、県下初の大型住宅団地として開発された高花平が続きます。高花平団地は、昭和36年に造成の起工式が行われ、今年平成24年は、団地創設50周年の節目の年にあたります。6月に、来賓を迎えた50周年記念式典と、式典後には、大勢の住民が参加して手をつなぐイベント「ハンドインハンド高花平」を町内の周回道路で行い、住民が手をつなぎ、よりいっそう楽しいまちにしたいと願いました。

笹川団地と高花平団地で共通していることは、「団地がふるさと」になっていることです。

○四郷地区の自治会活動

四郷地区の自治会活動の特色は、四郷連合自治会、笹川連合自治会及び高花平連合自治会と、3地域に各々連合自治会があり、それぞれの個別の活動に加えて、3連合自治会が連携して四郷地区連合自治会を組織し、共通の課題解決に向けて活動している事です。

毎月、3連合会長会議を開催して意見や方針の確認を行い、並行して防災や人権に関しては、「四郷地区自主防災協議会」及び「四郷地区人権教育推進協議会」を組織して、3地域が協力して安心と安全のまちづくりと四郷地区全体の活性化を目指しています。



四郷郷土資料館



笹川団地創設記念樹と記念石碑



式典イベント「ハンドインハンド高花平」

各連合自治会の地域活動

南部【日永地区】

日永地区連合自治会

会長 高野 健

防災運動会で意識向上

昨年は国内外で自然災害の怖さを思い知らされた年でありました。

特に、3月11日の津波や原発事故を伴った大地震の発生、あるいは9月の台風12号により三重県南勢地域において、多くの被害が発生し地域防災の拡充が大きな課題になりました。

その中で得た教訓に地域のコミュニティの役割が大変重要であると考えられ、今まで何十年間実施してきた防災訓練を昨年は内容を変え、参加者全員が「楽しみながら防災について学ぶ」、また「地域のつながりを広め共助の心(絆)を育む」事を目的に防災運動会を実施しました。

日永地区として初めての試みではありましたが、550人余の方々が参加され、皆さん和気あいあいと、しかもお互い協力しながら、ひとつの目的に向かって取り組んでいる姿は感動さえ覚えました。

地区内31自主防災隊を4ブロックに分けて、ブロック対抗で競技を開始し、竹竿と毛布を使って応急担架を作り、救援者を搬送する「安全・安心搬送リレー」や先頭から順次、伝言を送って正確さを競う「情報伝達リレー」、初期消火を想定した「バケツリレー」などに挑戦する共に、消防分団員による「AED(自動体外式除細動器)講習」、或いは「東日本大震災の写真パネルの展示」、地区社協女性部らによる「炊き出し訓練」も実施いたしました。また、それぞれ各隊が体育館で車座になっての非常食の試食は東日本大震災の避難所を連想でき、貴重な体験になったのではないかと思います。

今年に入ってから、収まることなく自然災害が多発しており、多くの被害が発生しております。

また、近い将来かならず起こるであろう「東海地震」・「南海地震」・「東南海地震」に備えて、地域防災意識の高揚を図るため更なる努力をしてまいりたいと考えています。



北勢バイパスの進捗状況について

一般国道1号北勢バイパスは、川越町南福崎の国道23号から鈴鹿市稲生の中勢バイパスに至る延長約28.4kmの幹線道路です。

国道1号と国道23号並びに、内陸部の生活道路を適切に交通分散することによって交通混雑の緩和を図るとともに、道路交通の安全を確保し、さらには内陸部の地域開発を促進することも目指しています。

このバイパスの計画は30年余も前から検討されていましたが、諸般の事情から遅れを取ったこともあり、未だにその進捗は半ばにも至っておりません。

中小の地方都市にとって、通過している一番大きな幹線道路のバイパスを建設する事によって、道路交通問題の約半分は解決するといわれています。

例えば、四日市市の中心街を通る国道1号と国道23号は慢性的な交通渋滞が生じています。また内陸部の生活道路でも交通混雑が増大しています。

なかでも、国道1号金場町交差点、日永三交差点、日永五南交差点は、三重県第4次渋滞対策プログラムにおいて主要渋滞ポイントにも指定されており、日常的に渋滞が発生しています。こういった交差点の慢性的な渋滞の解消が期待されているのです。

現在、川越町から四日市市采女町までの延長20.9kmが事業区間とされて建設が進められています。この路線の供用区間は川越町から7.1kmの東芝四日市工場付近までとなっています。平成26年度には市道日永八郷線まで、また、平成30年度に予定されている新名神高速道路の開通に合わせて菰野町に建設される(通称)菰野インターチェンジへの連絡道路として国道477号バイパスが整備されます。北勢バイパスも国道477号バイパスと結ぶべく鋭意建設を進めており、一日も早い四日市市曾井町(国道477号バイパス)までの完成が待たれます。

事業区間の中の、残区間につきましては建設を着手すべく川島地区、四郷地区、小山田地区、内部地区の測量に平成23年度に着手していただきました。今後は各地区に予定されている『北勢バイパス対策協議会』を設置し、北勢バイパスの役割や必要性、設計案の勉強、課題となる案件の整理をする。また、地元の状況をよく把握し、各自治会長からの要望や意見聞き取りを行い、要望内容の意見交換をし、設計説明会への準備を行います。

後に、地元関係者や地権者への設計説明を行い、質疑応答など意見交換を行い、地元との調整に努め、概ね合意を得た上で、用地の幅杭打設を行い用地買収に掛かる予定となります。

今後この事業の促進には地元の用地協力が一番の近道であり、重要なことだと考えていますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



内部・八王子線の存続について

赤字経営が続く四日市市南部の近鉄内部・八王子線（全7キロ）が廃止される恐れがあるとして、四日市市議会は、存続策を検討する特別委員会を設置いたしました。

6月15日の朝日新聞でも、“近鉄は市に赤字補填を求めており、来年夏ごろに「将来の方向性を決める」と伝えている。”と大きく報道され、この問題について、四日市市自治会連合会で、その存続に対して、会長名で近鉄に対して存続への要望書を提出致しました。

この鉄道の敷設は大正時代に行われ、軽便鉄道として八王子から四日市駅まで開通しその後、内部線が10年ほど遅れて開通しました。一時は乗客も多く、内部線なども15分間隔で運行されるほど乗客が多かった時代もありましたが、モータリゼーションの波には勝てず、赤字路線となっています。近鉄としては駅の無人化などを進めてきましたが、採算が難しい路線となっております。

この鉄道沿線の住民である常磐、四郷、日永、内部の人達にとって長年利用し、また愛着を持っていた電車の廃線など到底受け入れないというのが心情です。

また、年々進む高齢化時代に交通弱者であるお年寄りの通院、買物等々に支障が生じてしまいます。

またこの沿線には高等学校も四校あり、これらへの通学の手段が無くなりかねません。

鉄道が無くなるとバスという交通手段が浮上しますが、現在の国道1号の混雑状況からして、到底バス運行でスムーズな代替の輸送手段にはなりません。現在でも1日中交通渋滞の状況の中、特にひどい朝晩にはバスの大幅な増便など、およそ不可能というものです。

もし仮にバスを走らせても定時性は全く期待できず、公共交通機関としては、問題になると思われます。

電車という公共交通はバスとは違って、小回りは利きませんが、その定時性、大量輸送、雨天時の利用、早朝から夜遅くまでの運行等絶対的なメリットを持っています。

また、その他に環境にやさしくエネルギー消費が一番少なくてすむ交通手段なのです。ヨーロッパでも路面電車が復活する時代にエネルギーコストが桁違いにかからない、環境にやさしい乗り物として、電車という交通手段が復活しています。日本でも、今一度、電車の活用を見直す必要があります。

四日市を含む北勢地方は現在自動車利用を主体としたまちづくりがなされてきました。生活のあらゆる面に公共交通の利便性が少し低かったのか、爆発的に自動車社会に突入してしまいました。その結果、市街地の繁華街はシャッター通りとなり、郊外や工場跡地には巨大なショッピングセンターが出来上がってしまいました。

都市施設の充実している市の中心部の利用効率が悪化し、その反対に郊外の新興団地へと人口の重心が移動しつつあります。

もう一度市街地の賑わいを取り戻すためにも、鉄道という交通手段を使ったソフトなまちづくりや住民の考え方を変える運動をして、鉄道利用を大いに促進し、赤字路線から黒字路線に変換できるよう住民自らも生活態度を変えるようという、啓発活動を官民一体となつてすべき時だと思えます。

このため当面は四日市市自治会連合会が中心となり、鉄道存続の署名運動をさせていただきたいと思えます。また、常磐、四郷、日永、内部等の地区とまた周辺の鈴鹿市や小山田地区などにお住まいの方々とも力を合わせて、鉄道利用の呼びかけ運動を展開したいと考えています。どうか四日市市民全体の問題と捉えて鉄道が存続できますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。



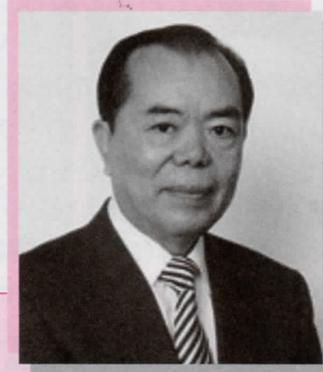
【四日市市自治会長大会講演会テーマ】

大地震「闘う防災術」

テレビでおなじみの

講師：防災・危機管理アドバイザー

やま むら たけ ひこ
山 村 武 彦 氏



【講師プロフィール】

- 1943年 東京都に生まれる
- 1964年 早稲田大学第一文学部中退
- 1964年 新潟地震でのボランティア活動を契機に、防災システム研究所を設立。その後、100ヶ所以上世界各地の災害現地調査を実施。
- 1995年 阪神・淡路大震災の時、二日米都市防災会議に出席するため大阪に滞在。地震発生2時間後に現地に入り救助活動を手伝い、直後の被災地調査を実施した。
- 2004年 新潟県中越地震をはじめ、東日本大震災に至るまで、数々の大災害の現地調査～現在 を行い実践的防災対策を提案している。

日 時：11月8日（木）

会 場：四日市市文化会館 第2ホール

【第1部】 永年勤続表彰 午後1時30分～

【第2部】 講演会 午後2時30分～

※第2部 講演会は2時30分より開催いたしますので、一般の方もお気軽にお越し下さい。

無 料 ※駐車場が満車の場合は、JAパーキングをご利用ください。

ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

【問い合わせ先】四日市市自治会連合会事務局 担当大瀧・柳川まで

《編集後記》

今回は、新議長からメッセージをいただきました。

四自連の活動や、地域での活動の紹介と併せて、今後四日市市民が取り組むべき課題の説明をさせていただき、みなさんにご理解、ご協力いただくために発信しております。

今後も、情報交換できる場として、編集していきたいと思っております。

《編集委員》

野崎 讓二（中部ブロック）

水谷 重信（東部ブロック）

藤田 一行（北部ブロック）

廣田 敏春（西部ブロック）

若尾 伸一（西南部ブロック）

原田 禮嘉（南部ブロック）

四日市市自治会連合会事務局

〒510-8601 四日市市諏訪町1-5

TEL・FAX 059-354-8287